

令和 8 年 6 月 第 2 回 木島平村議会定例会
《第 3 日目 令和 8 年 6 月 5 日 午前 1 0 時 0 0 分 開議》

議長（勝山 正）

皆さん、おはようございます。

（全出席者「おはようございます。」）

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第 1、一般質問を行います。

一般質問の順序については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

3 番 湯本行浩 議員。

（「はい、議長。3 番。」の声あり）

（3 番 湯本行浩 議員 登壇）

1. 村におけるハラスメント防止と適正な組織運営について

3 番 湯本行浩 議員

それでは、議長から発言を許されましたので、通告に基づき 2 項目の質問に入らせていただきます。

1 項目目です。村におけるハラスメント防止と適正な組織運営についてです。

職場におけるハラスメントとコンプライアンスの問題は、個人の尊厳や安心して働ける環境に大きく影響するだけでなく、組織全体への信頼や行政サービスの質にも関わる重要な課題でもあります。

そのため、村としても適正な組織運営を行い、誰もが安心して働くことのできる職場環境づくりを進めていくことが重要であると考えます。

村としても、適正な組織運営と安心して働くことのできる環境づくりを進めていくことが重要であると考えことから、5 点についてお伺いいたします。

ここで言うコンプライアンスというのは、法令遵守ということだけでなく、社内規定や社会的倫理、常識、誠実に行動するということです。

まず 1 つ目です。

村職員に対するハラスメント防止及びコンプライアンス推進に関し、規定の整備、相談体制、職員研修等について、現在どのような体制を整備し運用しているのかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

ハラスメント防止に関しましては、令和 3 年に木島平村職員のハラスメントの防止に関する要綱を定め、職員におけるハラスメント防止の措置及びハラスメントが生じた場合に適切に対応するための措置に関し必要な事項を定めています。また、研修の実施や相談窓口の設置等についても定めています。

ハラスメントとコンプライアンス関係の職員研修につきましては、平成 25 年度から関連研修への参加を継続しているほか、近年は外部講師によるハラスメント研修とコンプライアンス研修を毎年隔年で実施しております。

なお、職員からの相談窓口及び職員研修の窓口は総務課総務係で行っています。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問ですけれども、現在の相談体制や研修等についてはお聞きしました。

職員が実際に利用しやすく、理解が浸透しているかをどのように把握・検証しているか、またその結果を制度改善にどのように生かしているかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

はい、お答えいたします。

制度の改善ですとか職員への浸透また理解につきましては、毎年実施している研修において知識の浸透ですとか図っているところでございます。

特にアンケート調査ですとかそういったものは行っておりませんで、職員からの申し出ですとか相談を実施することによって把握をしているという状況になります。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

2点目です。

村職員に関して、これまでハラスメントやコンプライアンスに関する相談、通報等はあったのか。

また、その際、村としてどのような対応を行ってきたのか、個人が特定されない範囲でお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

ここ数年で申し上げますと相談件数は数件ございます。いずれも双方の面談を実施しています。

その後の相談発生はないと確認をしております。

なお、これ以上の答えはできませんのでご理解ください。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは、相談や通報への対応もです。

再発防止や職場環境の改善についてどのような検証を行っているのか、また相談者が不利益を受けないようにどのような配慮をしているのかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

各職場で担当課長を中心にそういった相談窓口といいますかを設けておりますし、また担当課上司では難しい問題については総務課の方で相談の対応をしております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは3点目です。

村として、組織におけるハラスメント防止及びコンプライアンス確保について、現在どのような課題認識を持っているのか伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

組織内における各種ハラスメントの防止に向けて、これまで継続的に研修を実施してきました。

その結果、ハラスメントに対する職員の意識や理解は着実に深まってきていると認識しております。

しかしながら、組織の健全な運営と職員の安全を守るためには、内部向けの対策だけでは不十分であり、カスタマーハラスメントや職員以外からのハラスメントなど外部からのハラスメントへの対応が新たな課題となっています。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは解決に向けて今後どのような取組を進めていくお考えかをお伺いします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

お答えいたします。解決に向けてということでございます。

今現在、村職員のハラスメントの防止等に関する要綱に基づきまして、職員の研修の実施、理解を深めることを職員の責務として定めて実施しております。

今後ですけれども、そういった社会の情勢ですとか職場の状況等を注意しながらこれからハラスメントのない職場づくりに努めていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは4点目です。

ハラスメント防止およびコンプライアンス推進については、個別事案への対応にとどまらず、未然防止や相談しやすい環境づくり、組織風土の改善が必要と考えます。

村として、今後どのような体制整備や意識改革を進めていくお考えかお伺いたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

ハラスメント防止及びコンプライアンス推進につきましては、議員ご指摘のとおりと考えております。

継続的な研修の実施と相談窓口の周知など、現在の体制及び取組を継続しながら、未然防止と迅速な対応を心がけていきたいと考えております。

また、今年10月から職場におけるカスタマーハラスメント対策が義務化されることに鑑み、これまでの身内のハラスメント防止から1歩を進め、外部の不当な要求から職員を守るためのコンプライアンス体制を先進事例なども参考にしながら構築していく必要があると考えております。

具体的には、外部ハラスメントに対する明確な対応マニュアルの策定と職員が安心して職務に専念できる環境づくりを進めてまいります。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

外部に向けてということですが、まず、村が考える相談しやすい風通しの良い職場とはどのような状態を指すのか。

また、その実現に向けた取組の効果をどのように把握し、継続的な改善につなげていく考えかをお伺いします。

また、管理職にどのような役割や責任が求められると考えていますか。

お伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

はい、お答えいたします。

現在、村では人事評価制度を導入しておりまして、その中で業績評価、業務の目標を立てて、それに達成したかどうかを評価する。それと各個人の能力における評価を実施しております。

その中で上司と係員の面談の機会を設けておりますので、そういったことも活用しながら職場の風通しの良い職場を目指しております。

また、管理職の役割でございますけれども、常日頃、職員の体調変化ですとか顔色に注意をさせていただいて、体調の変化を見ていただくということをお願いをしております。

そういったことによりまして、各職場の職員同士のコミュニケーションを図れるように進めておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは5点目になります。

村と関わりのある事業者や団体等に関連して、適正な運営や職場環境の確保に関し改善が必要と考えられる問題点等について相談や情報提供があった場合、村としてどのように対応しているのかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

基本的にはその組織の問題になりますので、村以外の事業所や団体に関しては、その組織内での相談窓口への相談などをおして対応していただくことが基本であると考えております。

なお、組織の相談窓口以外として、国の機関などの窓口を紹介することも可能となっております。

村との関わりに関係なく、村民に向けてハラスメント防止及びコンプライアンス推進を呼びかけていくことは必要と考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

ちょっとかぶってしまうかもしれませんが、委託先や指定管理者等を含め、村と関わりのある事業者、団体に対してハラスメント防止やコンプライアンス遵守をどのように求めているのか。

また、問題が確認された場合には村としてどこまで関与するのか。

また、どのようにして改善を求めていくのかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

はい、お答えいたします。

先ほども申し上げたとおりでございますけれども、委託先であっても指定管理者でありましても、基本的にはその組織の問題となります。

村でそういった情報を受けたということであってもできるだけその組織で対応していただくということを基本として考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは、本村は地域のつながりが強い一方で、相談しづらさや声を上げにくい面があるのではないかと感じています。

また、ハラスメントやコンプライアンスに関する意識についても、十分浸透していない部分があるのではないかと考えます。

こうした点では、行政だけでなく地域や企業も含めた村全体の課題であり、意識の向上が必要だと考えます。

その中で、村職員が率先して風通しの良い職場づくりや意識改革に取り組み、地域全体にも広がっ

ていくことが重要と考えますが、村としてどのような姿勢で取り組んでいくかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

意識の向上に向けた取組ということでございますけれども、地域に向けてコンプライアンスの遵守ですとか、ハラスメントの防止につきましては、広報紙などを通じて啓発ですとか、周知をしていくことが必要だと考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

村職員が率先して風通しの良い職場づくり、意識改革というのはお考えにはなってないですか。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

職員自らということでございますけれども、役場の中でやっております職員向けの研修を毎年行っております。

この中で職員が自らコンプライアンスの遵守、ハラスメントの防止について意識をしていただければと考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

2. 人口減少を見据えた今後の村づくりについて

3番 湯本行浩 議員

それでは、2項目目の質問に入ります。

人口減少を見据えた今後の村づくりについてです。

全国的に人口減少と少子高齢化が進む中、本村においても人口減少は避けられない課題となっております。

そのため、単に人口の増加を目指すのではなく人口減少を前提とした上で、地域や集落、行政サービスをどのように維持していくのかという視点が今後ますます重要になると考えています。

また、空き家対策、移住定住施策、除雪対策、地域農業、観光振興など住民生活と地域経済を支える仕組みについて、将来を見据えた現実的かつ持続的な戦略が必要であると考えます。

そこで6点についてお伺いいたします。

まず1点目です。

第7次総合振興計画における人口推移と比較して、現在の人口減少は想定どおりなのか、それとも想定以上に進行していると認識しているのか。

あわせて、人口減少が進むことで地域コミュニティや産業、行政サービスなど、今後の暮らしや地域にどのような影響が生じると考えているのかお伺いいたします。

また、村として現在10年、20年後の人口についてどのような見通しを持っているのか、将来的な

地域の姿も含めた村の認識をお伺いいたします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

ちょっとご質問の範囲が広まっているようですが、最初のどのような見通しとどのような認識かということになりますが、この村の直近の人口ビジョンでは、推計人口として令和7年の人口を3,934人、令和17年の人口を3,449人、令和20年、20年後の人口を2,939人としております。

一方、令和7年国勢調査の速報値では3,912人ということで、推計人口よりも22人少ない状況となっております。想定を上回る速度で人口減少が進んでいると認識をしております。

村では、令和7年から令和10年を計画期間とする第3次総合戦略を策定し、少子化対策プロジェクトと住み続けたい暮らし実現プロジェクトを掲げ、予想される人口減少を緩やかにするための取組を実施しております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

申し訳ございません。

質問1点目と2点目がちょっと一緒になっちゃったようですけれども、この1点目の再質問ですけれども、人口減少が進む中で村として特に危機感を持っている課題は何か。

また、10年後、20年後を見据え、どのような地域の姿や暮らしを維持できていきたいと考えているのか、お伺いいたします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

どのような対策っていうか、それについてはご存知のとおり、まずはやっぱり少子化対策を最重要課題として取り組まなければならないよというふうに思っております。

ただ、人口減少イコールそのまま村の衰退にならないよう、そういう対応も同時に必要だというふうに考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

2点目です。

人口減少が進む中、村の財政運営や行政サービスについて、今後どのような課題が生じると考えているのか。

また、そのような状況の中でも住民生活を支えていくために、村として、今後どのような地域機能や行政サービスを維持していく必要があると考えているのかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

人口減少により生じる課題とのご質問ですが、少子化や担い手の減少により、催し事、それから伝統行事の維持継続が困難となって、地域の活力が減少していくことが予想されます。

また、上下水道などインフラや国民健康保険、介護保険などの保険事業については、加入者、被保険者の減少により、インフラ整備や制度の維持が困難になることが予想されます。

また、教育面では、少子化による複式学級化や競争力の低下などが懸念されております。

人口減少の進行により投資できる資本や人的資源が制限される中、業務の見直しや効率化を図りながら、第7期総合計画の将来図の実現に向け、持続可能で1人1人が希望を持てる村となるよう政策を進めてまいります。

なお、可能な事業については、公費化により効率化を図る必要があるというふうに考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

3点目についてです。

集落について、高齢化や人口減少が進む中で現在どのような課題を認識しているのか。

また、地域や集落を維持していくために、今後どのような支援策や地域づくりが必要であると考えているかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

おっしゃるとおり、集落の高齢化や人口減少は大きな課題であります。

従来の仕組みややり方の延長線上では、集落の維持や活動が難しくなっているというふうに認識しております。

現在、各集落においては単に人口が減るだけではなくて、役員の成り手不足、役員の負担増、草刈りや共同清掃といった集落活動の負担、伝統行事や祭りの縮小、廃止といった、これまでの地域コミュニティのあり方に関わる課題が表面化してきております。

これまで当たり前のように行われてきた集落の活動が、既存の仕組みのままでは困難になってきた状況であります。

しかしながら、このような状況において、行政が全て課題を肩代わりしたり助成金を増額したりするだけでは、根本的な解決にはつながらないというふうに考えております。

現在重要と考えているのは、行政への依存ではなく、各集落において自分たちの集落をどう守り、どうしていくのか、どう次の世代につなぐかを自ら考えていただき、それぞれの実情に応じ工夫をいただきながら、主体的に集落を維持していく必要があるというふうに考えております。

そのため、村では各集落の運営状況をまとめた資料を各区長に提供し、工夫できる点がないか考えていただき、今後は各集落の実態調査などを行いながら情報共有を図り、どのような取組が可能か、またどのような支援が必要か検討していく予定であります。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問になりますけども、集落ごとの状況が異なる中で、今後は一律ではなく地域の実情に応じた支援も必要と考えますが、その点についてはどうお考えなのかをお聞きます。

議長（勝山 正）

湯本総務課長。

総務課長（湯本寿男）

お答えいたします。

地域によって状況は異なることは承知をしております。

先ほど村長も申し上げたように、今年度実態調査などを行いまして、各区でどのような課題をお持ちなのか、どのような改善ができるのかというところを集落と共に一緒に考えていきたいというふうに思っております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは4点目です。冬季の除雪についてです。

オペレーターの高齢化や担い手不足、燃料費や機械更新費の増加など、将来的な不安を感じる住民も多く、今後も安心して冬を暮らせる地域を維持していくためにどのような体制づくりが必要であると考えているかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

芳川建設課長。

建設課長（芳川 誠）

それでは除雪体制について答弁いたします。

現在、村のオペレーターは、会計年度人員職員5名、受託オペレーター13名、臨時オペレーター2名の20名体制で直営路線の除雪を行い、その他に業者への委託による除雪体制となっています。

村では地域の人材育成が重要であると考え、特に新規オペレーターには冬季除雪の研修や除雪技術の伝承などに力を入れております。

また、除雪機の更新については、計画的に交付金や有利な起債を活用しまして、村の財政を圧迫しないように努めております。

さらに、地域住民との合意形成も大変重要なため、除雪に関する意見や要望を丁寧に伺いまして、地域の特性を考慮した上で、適切な除雪計画を策定しております。

冬季間の除雪は、地域住民の生活や産業を支える上で極めて重要な業務であります。

村民の皆様が安心して冬を過ごせる体制づくりについて、引き続き努めてまいります。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

再質問です。

高齢者世帯など除雪弱者への支援についてどのようにお考えになっているかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

芳川建設課長。

建設課長（芳川 誠）

高齢者等につきましては地域の組織を作るである等、いろいろな高齢者を守る組織作りが大切だというふうに考えておりますので、今後そういった部分について引き続き検討してまいりたいというふうに思います。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

将来的にですね、現在の除雪水準を維持できるとお考えかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

芳川建設課長。

建設課長（芳川 誠）

現在の除雪直営の体制であります、令和7年度現在で年齢は49歳が平均となっております。

これを引き続かうまく更新を行いまして、この体制を維持するのを基本にしまして、そのほか不足するようであれば、官民連携の強化や広域連携なども検討してまいりたいというふうに思います。
以上です。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは5点目です。

空き家対策や移住定住施策について、現在どのような成果や課題があると認識しているか。

また、移住を検討する立場から見た村の魅力や課題についてどのように認識しているか。

併せて、移住者が地域に定住し安心して暮らしていくために、今後どのような支援や地域とのつながりが必要であると考えているかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本幸伸）

まず、本村における空き家対策及び移住定住施策の現状とその成果・課題についてお話しします。

成果としましては、空き家バンクの運用や担当課によるワンストップ窓口の設置などにより一定の効果を上げている点があります。

令和6年度7年度とも空き家バンクの成約件数が新規登録件数を上回っている状況です。

また、空き家バンクの活用も含め行政による支援を行い、この2年間で28世帯49人の方が移住していただいております、それぞれの地域で地域の活力となっていっております。

課題としましては、空き家バンクの登録件数が少ないこと、その物件の掘り起こしにかかる所有者との合意形成にかかる時間の長期化が挙げられます。

空き家は移住希望者には貴重な地域資源となる一方、年々傷みが激しくなってしまうものであり、そういった空き家になってしまうと活用することができません。

解体費も年々上昇しておりますので、所有者のお気持ちに寄り添いながら情報を提供し、ご協力いただけるよう今後も努めていくことが必要と感じております。

また、賃貸物件の需要に応えられていない状況もあると考えております。

次に、移住を検討する立場から見た村の魅力と課題についてでございます。

実際に移住された方のお話をお聞きしますと、村の魅力は農村風景に代表される豊かな自然環境。

地域全体で子どもを育む、子育てしやすい環境、住民同士の顔が見える温かい関係性といったご意見を多くいただきます。

これらは今後、移住定住先としてPRする上で大きなテーマとなり得ると考えております。

ただ、これらは視点を変えますと課題と表裏一体とも言え、豊かな自然環境は冬の雪、顔が見える優しさは濃密な地域コミュニティとも言えます。

これらを踏まえ、移住者が地域に定着していただいて、安心して暮らしていくために重要なのは、移住前と移住後のギャップをいかに抑えるかであり、これまで以上に移住後のイメージを移住前に丁寧にご紹介していきたいと考えております。

こういったギャップを埋めつつ定着に向け、行政としての支援はもちろんですが、地域の皆様にも移住者の多様なライフスタイルを認めていただき、お互いに寄り添っていただくような心の受け入れ体制を地域の皆様にも醸成していただく必要があろうかとも思っております。

移住者、地域、お互いに認め合っていただけるよう、村としてもコーディネート機能の強化について、今後さらに着実に取り組んでいきたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

6点目です。

農業や観光については、人口減少が進む中、地域の活力を維持していく上で重要な分野であると考えます。

特に農業について、若い担い手の確保や農産物の付加価値向上に向け、今後どのような方向で取り組んでいく考えか。

また、観光や交流人口の拡大について、地域の賑わいや地域経済の活性化につなげていくため、今後どのような戦略や取組を進めていくお考えかお伺いいたします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

人口減少を見据えた今後の村づくりということですが、農業と観光に関するご質問にお答えいたします。

農業と観光は村の基幹産業であり、地域経済や雇用、地域コミュニティを支える重要な分野であるというふうに認識をしております。

まず、農業については若い世代が希望を持って農業に取り組める環境づくりが重要というふうに考えております。

新規就農者への支援や農業研修の充実など、関係機関と連携した担い手確保を進めるとともに、スマート農業等の技術の活用や作業の省力化など、持続可能な農業経営に向けた支援に取り組んでまいります。

本村の強みである米や農産物につきましては、品質の高さを生かしたブランド力の向上や加工品開発、ふるさと納税、観光との連携などにより付加価値向上と販路拡大を図ってまいります。

また、農業を地域資源として活用し、農業体験などを通じた交流人口や関係人口の創出にも取り組んでまいります。

次に、観光や交流人口の拡大についてであります。人口減少が進む中においても、交流人口や関係人口を増やしていくことは、地域経済の活性化や地域の賑わいづくりに重要であるというふうに考えております。

村の豊かな自然環境や農村景観、スキー場、農産物など地域資源を生かし、体験型観光を推進するとともに、グリーンシーズンの誘客強化や農業体験、スポーツ合宿など、多様なニーズに対応した観光コンテンツの充実を図ってまいります。

また、SNS やデジタル媒体を活用した情報発信を強化するとともに、観光振興局を中心に地域事業者や住民の皆様と連携しながら、地域全体で観光地域づくりを進め、地域経済への波及効果を高めてまいります。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

地域経済の活性化や交流人口の拡大につなげるため、今後、特に力を入れていきたい取組について伺いたいします。

議長（勝山 正）

本山産業課長。

産業課長（本山 等）

今後、特に力を入れていく部分でございますが、昨日の一般質問でもお答えしたとおり、村の暮らし、それから農村の原風景、そういったものを生かした誘客、それと関係人口の創出に努めてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本行浩議員。

3番 湯本行浩 議員

それでは最後の質問として、人口減少や少子高齢化は今後も続くことが見込まれます。

その中で限られた人材や財源の中で何を優先し、何を守りながら持続可能な村づくりを進めていくのが重要になると考えます。

そこで村長として人口減少時代の自治体運営をどのように進めていくのか。

また、この村らしさとして次の世代に残していきたいものは何か、伺いたいします。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日基正博）

再質問ということでよろしいんですか。

3 番 湯本行浩 議員

はいそうです。

村長（日基正博）

最初にも申し上げましたが、人口減少イコール村の衰退にならないようにということで考えていかなければならないというふうに考えています。

ただ、インフラについては、言ってみれば、人口が多い時代に整備したものが、人口減少によって少ない人数で維持していかなければならないというような課題が出てくるわけであります。

ただ、そこに住んでいる皆さんが、言ってみれば整備した状況の中でしっかりと生活を維持していく、そのために村とすれば、やはりそれらの支援とかをしていかなければならないというふうに思うと同時に、すでに村の中で過剰になってきた施設等の整理を行ってきておりますが、その規模に合ったインフラの整備をしながら、言ってみれば、ソフト面で村民の皆さんの生活とか、生活の質の向上につながるような部分への村の施策を進めて、集中するっていうかね、そういうような財源確保をしながら、村民の生活を支えていく必要があるというふうに考えています。

もちろん、その中でも村はやはり農業と観光が産業の柱でありますので、それら産業の活性化とか、振興策についても同時に進めていく必要があるというふうに考えております。

議長（勝山 正）

以上で、湯本行浩議員の質問は終わります。

（終了 午前10時39分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は10時50分とします。

（休憩 午前10時39分）